

【背景】

医療は 24 時間年中無休で需要があるのだが、例年、年末年始における医療機関の休診に伴い、薬局や保険調剤薬局もほとんどが休業している。そのため、わが国ではこの期間におけるファーマシューティカルケアを受けにくい状況にあると思われる。

【目的】

(株)ユタカファーマシーは、中部、関西にドラッグストア、調剤薬局を展開し、年中無休で営業している。今回、面に対応する調剤薬局を併設する 5 店舗の処方せん応需状況および OTC 販売状況を分析し、調剤併設型ドラッグストアの意義を検証する。

【方法】

調査対象期間：

2006 年 12 月 30 日（土）～2007 年 1 月 3 日（水）の 5 日間

調査実施施設：

ユタカ薬局山科店、ユタカ薬局桂店、ユタカ薬局一乗寺店、ユタカ薬局桃山南店（以上京都市内）、ユタカ薬局くずは店（大阪府枚方市）（以上 5 店舗）

調査内容：

処方せん応需状況と、処方せんの内容、処方せん持込み理由等を調査した。また 1 ヶ月前の同曜日の 5 日間（2006 年 11 月 25 日～29 日）と比較し、外来医療機関の事実上の休止による影響を調査した。

ユタカ薬局山科店 (京都市)

立地情報：JR 京都線・京阪・京都市地下鉄山科駅徒歩 5 分、旧国道 1 号線沿い。駐車場あり。

保険薬局情報：近隣にクリニック数軒あり、処方せん枚数 12 枚／日

ユタカ薬局桂店 (京都市)

立地情報：阪急京都線桂駅徒歩 15 分、大規模な公団住宅に隣接、駐車場あり。

保険薬局情報：近隣に大病院 3 軒あり、処方せん枚数 80 枚／日

ユタカ薬局一乗寺店 (京都市)

立地情報：京都市北部の住宅密集地に位置する。駐車場なし。

保険薬局情報：処方せん枚数 18 枚／日

ユタカ薬局桃山南店 (京都市)

立地情報：京阪宇治線桃山南口徒歩 5 分、大規模公団住宅に隣接、駐車場なし。

保険薬局情報：循環器医院ほか、数軒クリニックあり、処方せん枚数 30 枚／日

ユタカ薬局くずは店 (枚方市)

立地情報：京阪本線くずは駅徒歩 10 分、大規模公団住宅に隣接、駐車場あり。

保険薬局情報：関西医科大学病院他、大病院 3 軒あり。処方せん枚数 20 枚／日

【年末年始の処方せん応需についてのアピール】

● 年末年始も休まず営業することを知らせるチラシの配布とPOPを掲示

● 近隣医療機関へ年末年始の営業時間を連絡

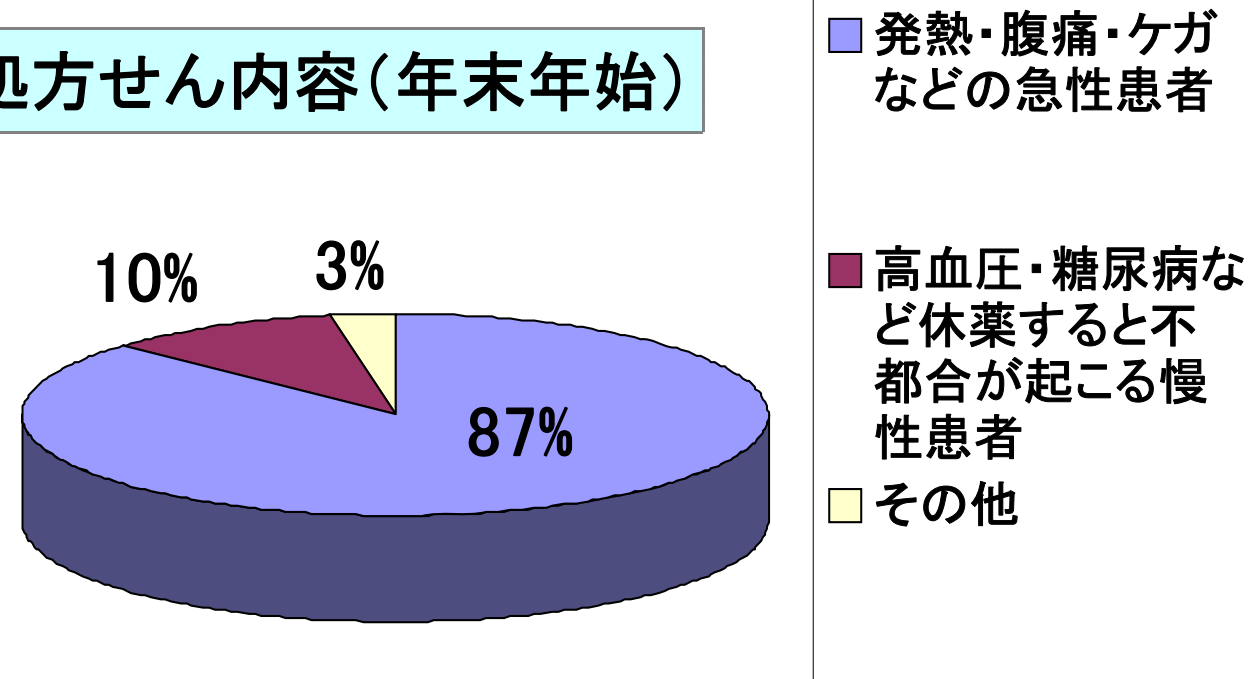
直接訪問(*1)して、採用医薬品リストを提示、年末年始も処方せん応需する旨を説明

(*1)訪問したクリニック：

店舗から一番近いクリニック。その内、自宅併設であるため、年末年始期間は休診だが、救急患者は診てくれるクリニック。

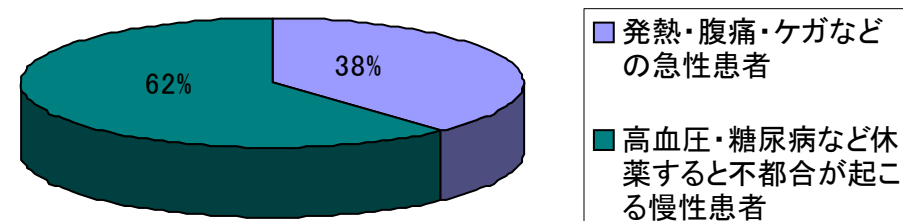
【結果①】処方せんの応需状況

処方せん内容(年末年始)

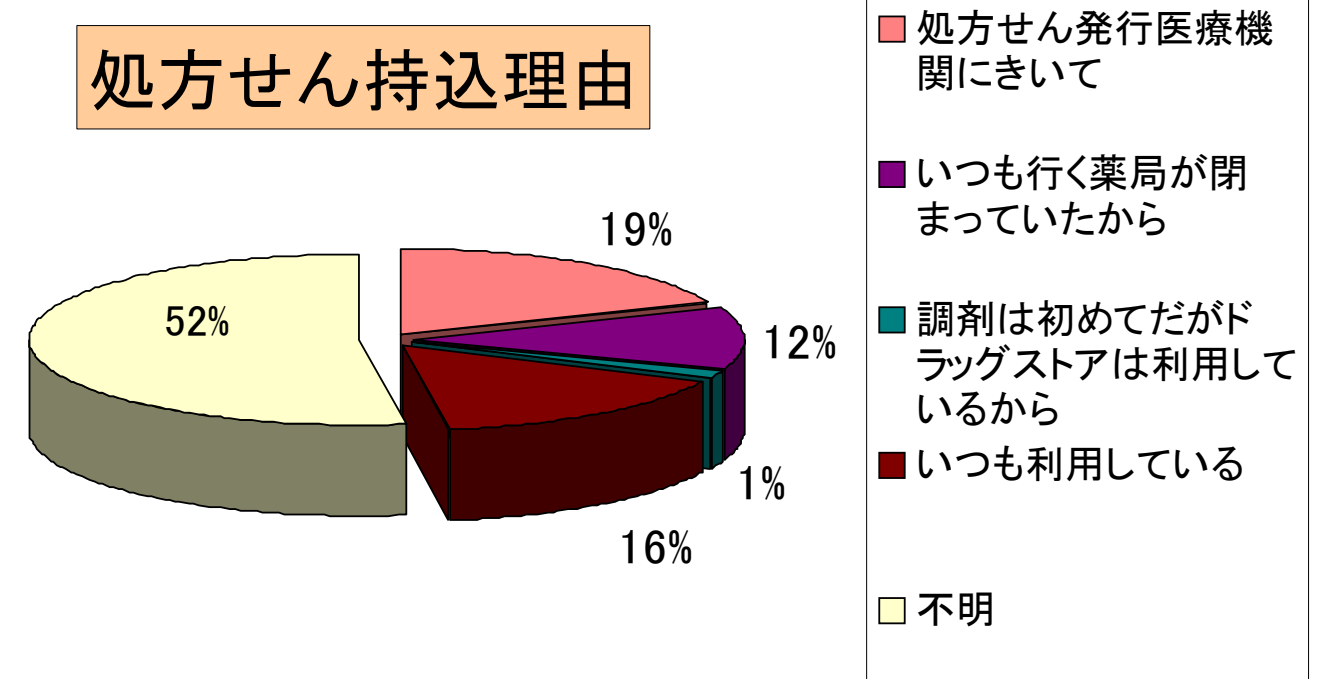


年末年始応需処方せんの内容：発熱・腹痛・ケガなどの急性患者 87% (60 枚)、高血圧・糖尿病など休薬すると不都合が起こる慢性患者 10% (7 枚)、その他 3% (2 枚)

処方せん内容(通常期)



処方せん持込理由



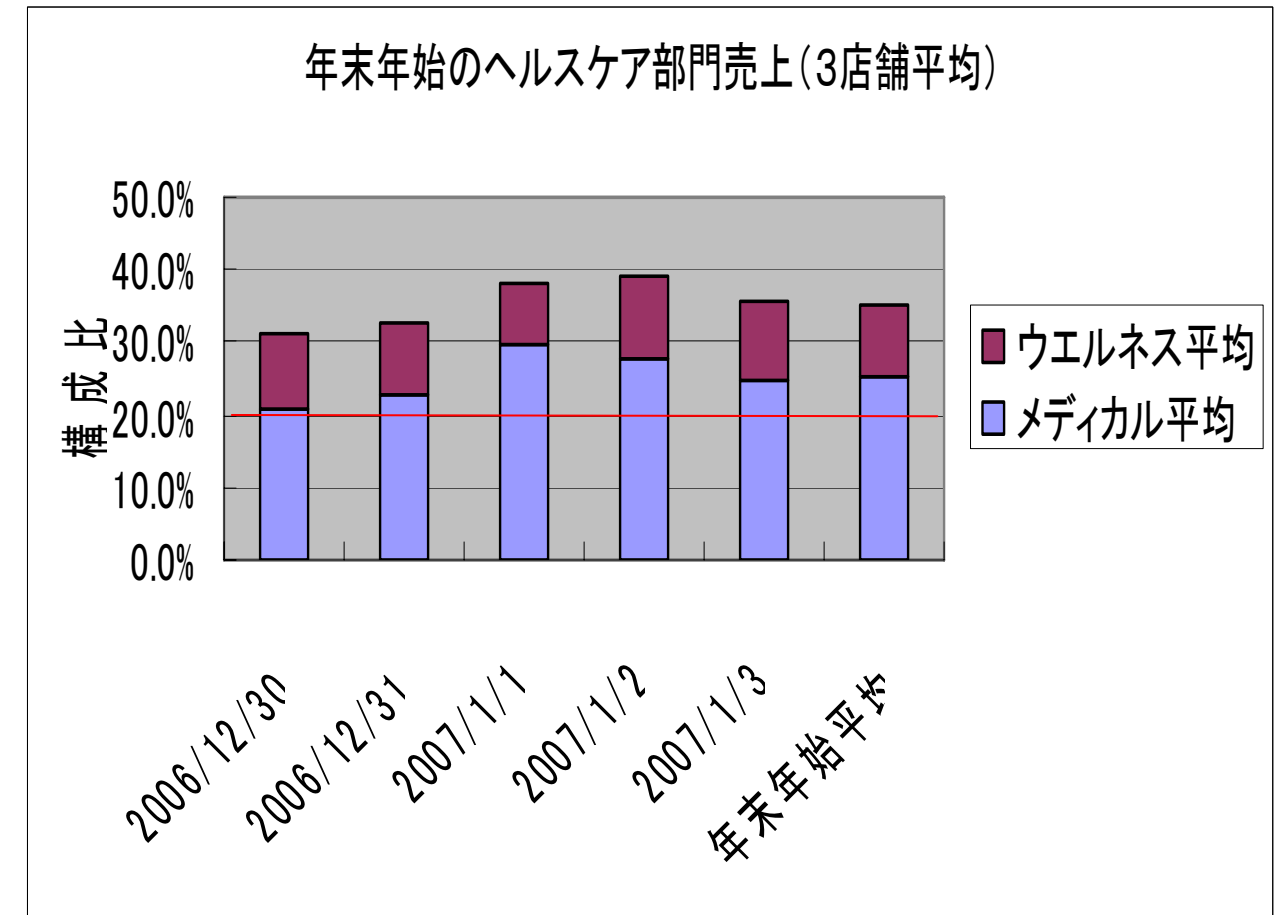
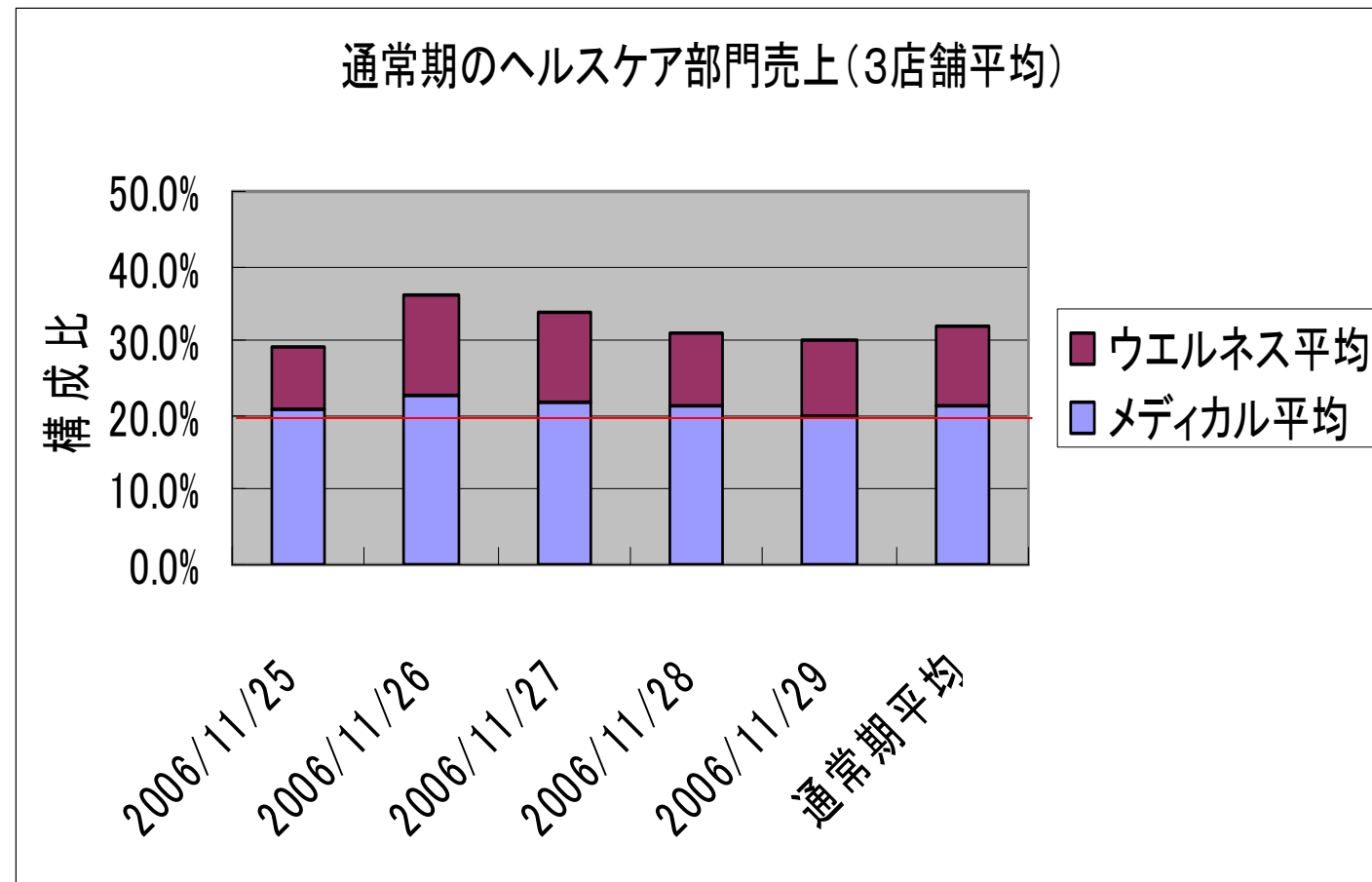
(総数 69 枚)

処方せん持込み理由：

「処方せん発行医療機関にきて 19%」、「いつも行く薬局が閉まっていたから 12%」、「調剤は初めてだがドラッグストアは利用しているから 1%」、「いつも利用している 16%」、「不明 52%」。

* 不明率が高いのは、持込理由は半数しか聞くことができなかったため

【結果②】 O T C接客（売上）状況



通常期に較べ、年末年始には、やはりヘルスケア部門（ウエルネス+メディカル）の売上構成比が高くなり、治療薬（メディカル）の構成もあがっている。

特に、元旦は、治療薬の売上が、最高になり、O T C薬への依存度が確認できた。

※ データ：3店舗平均：山科店、桂店、くずは店の平均

【年末年始の処方せん応需に 関する問題点】

不足薬剤の入手に時間がかかる。

(理由)

卸は休業しているので、分譲してもらえる近隣薬局を探すため、不足薬剤の調達に時間がかかる。

(原因)

処方医が年末年始開局の調剤薬局状況およびその薬局の採用医薬品を知らされていないので、不足薬剤が生じる。

(解決)

処方医に問い合わせが可能ならば、在庫のある薬品に変更してもらおう場合もある。

【年末年始の OTC 販売応対の特徴】

●年末年始は医療機関が休みであることを心得ている方がおおいので、気になる症状（食べすぎ、飲みすぎによる胃の不快感、風邪の初期症状）があった場合、正月明けまでの期間、症状悪化を招かないようにするための薬を買いにこられるケースが多い。

●受診が必要と判断した場合は、年末年始も営業している医療機関（救急医療機関など）を紹介しているが、実際に受診勧告にはいたらなかった。

●この時期（とくに年始）はお客様に時間のゆとりがあるためか、健康について気になっていることをこの機会に薬剤師に相談してみようという「健康相談」も目立った。

【考察】

年末年始開局していることの周知が十分ではない状況にありながらも、年末年始の処方せん応需があった。今回、その応需した処方せんの9割が急性患者であることがわかった。

また、いつも行く調剤薬局が休業だったので、年中無休であるドラッグストアを頼って来局された人もおられたり、また医療機関が休業であるため、ドラッグストアで薬剤師に相談してOTCを購入される人が多かったことから、急病・ケガなどの急性疾患に年末年始はなく、この医療空白期間に患者さんの健康への不安を取り除く手助けになったことを実感した。

別の面では、急性疾患ではないが、日ごろ気になっている身体上の諸症状や健康情報について相談される人も多いことから、年末年始の休暇に、また一年の始まりにあたり、健康についてじっくり考える機会になっているのだと思われる。そして、今回、年末年始の開局により地域の健康相談窓口としての重要性も再確認した。

以上より、地域のかかりつけ薬剤師として、年末年始においても、ファーマシューティカルケアを実践することは責務であり、現在の年末年始の医療体制のあり方(年末年始でも医薬品を供給できる卸の体制作り、行政等が中心となって、地域の医療提供の空白を埋める体制作りなど)を再考する必要があると思われる。

弊社では、年末年始の営業について、今後、さらに周知徹底することで地域の医療提供施設として「いつでも安心して健康を任せられるドラッグストア」として成長していきたいと考える。

追加

【結果②】OTC接客（売上）状況（山科店のみ）

